

事業名 とやまのみち フレッシュアップ事業

道路を利用する人たちの意見を聞きながら、今ある道路に「ひと工夫」加えることで、もっと安全で、より使いやすくすることを目的としている事業

受賞機関 富山県土木部道路課
事業実施期間 平成11年4月1日～平成14年3月31日
事業費 1,970百万円

事業等の特徴

アンケートやホームページなどを通して、道路を利用している人の意見やアイデアを幅広く聞き、寄せられた意見や新しいアイデアについて、仮設バリケード等による試験施工を行ったものである。また、その後、改めて利用者の意見を聞きながら検討を進めるなど柔軟な対応により、既存の道路ストックを最大限利用することに努めている。このことにより、身近な道路について利用者の関心が高まり、意見に対応したきめ細かな整備が可能になった。

事業の概要と利用者等の評価

本事業は、道路を利用する人たちの意見を聞きながら、今ある道路に「ひと工夫」加えることで、もっと安全で、より使いやすくすることを目的として、平成11年度より全県下で実施している。

事業の進め方として、県政モニター、ドライバーから小学生に至るまで、多くの利用者にアンケートを実施するとともに、道の駅やホームページなどで広く意見やアイデアを募集している。こうして得られた意見やアイデアを基に、既存ストックを有効に活用しながら、より使いやすくする計画を策定している。設計にあたっては、当該地区で懇談会や事前アンケートを実施するなど、利用者の意向を十分に反映できるよう努めている。中間段階で確認する必要がある箇所については、仮設での利用状況を検証するとともに利用者意見をさらに集約し、その結果に基づき必要な計画修正をしたうえで、本格施工することとしている。さらに、工事完了後のアンケートを行ったり、ホームページで自由に意見を求め、利用者の感想を、その後の施策展開へ活かす試みも実施している。

平成11年度に試験的な実施を行い、平成12年度から本格的に事業着手している。平成13年度までに、管内の概ね200箇所を実施している。

主要地方道富山港線の富山市東岩瀬市内、「JR東岩瀬駅前交差点」実施した例では、本線がS字型に屈曲しているところに、支線が交差し



対策前



対策後

しており、その変則的な構造から交通事故が多発していた。事故の主な原因として、支線から見通しが悪いことが挙げられていたことから、その解消策として、1つの十字路を2つのT字路に分割するという提案をした。実施にあたっては、まず、仮設バリケードによる試験施工を行い、そのうえで、地区住民や近隣小学校から意見を聞くこととした。その結果、「良くなった」という意見が26.5%、「もうひと工夫あれば良い」という意見が27.9%を占め、「悪くなった」とされた意見の19.1%を大きく上回る。また、施工前に年平均10件あった事故が、施工後の2年間には平均5件となっており、一定の効果があったものと考えられる。

これらの試験施工の結果などを踏まえ、さらに提案があった事項について検討することとした。そして、「信号機を併せて設置すればどうか」、「視界を遮っているものを撤去してはどうか」などの提案については、公安委員会とも連携しながら実施することとした。

審査委員会委員の意見等

- ・さまざまな媒体を通して多くの人に意見を求めている点が評価に値する。
- ・利用者の意見を幅広く聞き、きめ細かな工夫を整備に取り入れたことは評価できる。
- ・本事例の評価できる点は、地域からの意見を多様な手段で収集しそれを具体化していること、小規模の事例であるが故に、小回りが利き、すぐやるとの好印象を与えていること、「ひと工夫」というネーミングがよいことなどである。このような地域からの意見がすぐに結果に現れる事業方式が信頼感の再獲得のために是非とも必要ではないだろうか。
- ・市民活動でよく知られている地域であり、市民のアイデアを今後も活かせるようにしてもらいたい。